

鹿児島大学理学部同窓会

南明会関東支部だより

第二号

南明会関東支部だよりによせて

南明会関東支部会長 古川征弘

暑い季節を迎えようとしています。皆様如何おすごしでしょうか。今回は同窓会の役割について考えてみたいと思います。理念は「理学部同窓会南明会会則」にある通り、「母校と卒業生との連絡を保ち、かつ会員相互の親睦と向上を図ること」となっております。

これを踏まえて同窓会員が母校に対して何ができるか、長寿社会となり同窓生も社会的役割を終えて、その後の長い生活に張りを持っていただくようサポートすること、も大きな役割とっております。

前者については寄付、その他の手段で大学の研究活動を支援することがダイレクトに浮かびます。しかしながら理学部は大学全学部の中で最も金に縁の無い学部です。で、努力しても対応できません。その代わりに卒業生の多様な生き方を失敗例・成功例、決断を迫られたときの対応例、海外での仕事・留学時の対処等を含めて話をする・討論することはできます。これについては昨年より「おかえり先輩」と題し、本部でも取り上げて頂き、継続を決めて頂きました。

後者についてはこれからの新たな役割と

考えています。私の若い時に寺山修司が「書を捨てよ。町へ出よう。」という言葉を書いた時の青年層に投げかけたことが本件に関して思い起こされます。うまい置き換えではありませんが、「テレビ（あるいはメール）を捨てよ。町へ出よう。」新しい何かを求めて、あちこちで催されている祭りなどの行事、講演会へ参加することへのお手伝いをするのも同窓会の大きな役割ではないかと考える日々です。

大学に関連することでは「日本寮歌祭」もその一つでしょう。鹿児島に関連することでは「社団法人三州倶楽部」主催の講演会、多種多様な退職者向けの催し事への誘いなら「公益社団法人日本産業退職者協会」の行事などがあります。

皆様いかがでしょうか？

令和8年度 鹿児島大学

同窓会連合会総会が開催される

令和8年4月11日に鹿児島市与次郎のホテルウエルビューがごしにて令和8年度鹿児島大学同窓会連合会の総会が開催され、南明会関東支部から古川会長が、関西支部から前園支部会長代理が出席した。

総会では今年の卒業生数が二千五百人、新入生が二千六百四人に達したとのこと、他の国立大学に引けを取らない数であること、新学長に医学部出身の井戸章雄理事が就任されたことが報告された。

井戸学長より大学の挑戦として、長崎大・宮崎大と共同してヒト・ヒト感染症、人

獣共通感染症の共同研究を行うこと、ふるさと納税（鹿児島市）として鹿児島大学への寄付（返礼品無し）ができること、鹿大フアンクラブを創設し、大学と双方で催事、公開講座、成果発表といった繋がる新コミュニケーションが始まったことが報告された。



総会後に懇親会が開催され、オープニングセレモニーにオルフェウス・ハーブアンサンブルによるハープ演奏が行われた。各学部同窓会別に近況と出席者紹介があり、

理学部からは先生、同窓会員11人が壇上で紹介された。南明会関東支部から2名、関西支部からも2名が参加した。

講演会「第二回 おかえり先輩」開催

令和8年4月12日に鹿児島大学理学部にて、昨年に続く同窓会と大学との交流手段として卒業生による講演会が開催された。前回は稲盛氏が寄贈された稲盛会館で開催されたが、今回は理学部一号館と二号館の間に大講義室にて行われた。

講演者は関東支部から高橋圭介氏（元東京大学医科学研究所技術職員）、関西支部

から奴久妻聡一氏（神戸大学研究員）並びに前園隆博氏（貝塚市議会議員）の三名であつた。

高橋氏は昭和 55 年化学科卒で、卒業の二週間前から東大医学科に入所、令和 5 年に退職されるまでの 43 年間に渡る血液内科の研究室での通常業務から特殊なプロジェクト活動についての話が披露された。

奴久妻氏は昭和 57 年生物学科卒、昭和 59 年修士課程修了後は金沢医科大学、北大、東大医科研、カリフォルニア工科大学といった国内外の大学・研究機関にてウイルス感染の研究に従事され、多くの研究者との交流についての話をいただいた。

前園氏は昭和 57 年化学科卒で化学系の企業に就職後、地元での生活の中で社会に対する関心が高まり、平成 27 年より貝塚市議として活動、会社員時代のことから議員としての活動についての話をいただいた。

今回は前回と異なり、講演会の告知が理学部同窓会の公式サイトのみであったため参加者が少なかったが、講演の後には会場の学生から演者への質問・英語の必要性について等に対し、講演者から丁寧な説明がなされた。また参加されている同窓会 OB からも学生に向けてそれぞれの専門分野の学会への参加を促す意見が出た。

来年は鹿児島在住の卒業生による講演を関東支部会長より同窓会本部に要請し了解していただいた。また卒業生の約二割が中高の理科教職に就いていること、入学者の半数近くを女性が占めていることから、教

員や女性の卒業生に講演依頼することも考慮してもらうことになった。

第 65 回日本寮歌祭参加報告

表題の寮歌祭が令和 7 年 11 月 23 日にアトホテル日暮里で開催された。わが南明会関東支部からは、古川、伊藤、谷川、加治屋の 4 名が参加した。到着したホテルの会場は広く四方の壁は全国の参加校の校名、校章でうめつくされていた。

日本寮歌祭実行委員長藤村延魚氏のご挨拶『寮歌を愛する皆さん！ いざや、肩を組み、豪快に、楽しく、寮歌を歌いましやう！』の掛け声を

受け寮歌祭が開幕した。

当日の出演順序では、我が第七高等学校造士館 鹿児島大学は最後の 60 番目である。



11:30 に前半校の高吟が開始された。前半の最後は 30 番

目の全淑女・愛好会「琵琶湖周航の歌」、男性は「陸ボート漕ぎ」にご参加有れの掛け声で会場全体が盛り上がり、南明会関東支部の谷川さんが目立つ黄色の帽子をかぶりボー



ト漕ぎに参加していた。

13:30 に後半校の熱唱が開始された。後半の最後は 60 番目の第七高等学校造士館

鹿児島大学である。

「アイン・ツバイ・ドライサー

北辰斜めにさすところ

・ ・ ・

やはり母校の寮歌は胸にしみる。

閉会式は 15:20 から、嗚呼玉杯に全員参加で壁に沿って大円を作り、反時計周りに歩みつつ高唱し、盛会のうちに終演となった。今回の参加者は 39 校・265 名で、そのうち鹿児島大学は 18 名参加で金沢大、長崎大に次いで 3 位であつた。

◎南明会関東支部総会開催のお知らせ

期日：令和 8 年 10 月 24 日（土曜日）

時間：13:00 ～ 17:00

場所：三州倶楽部

近日中にお知らせを郵送いたします。
また当日は理学部の小山教授の講演を予定しています。

発行元：南明会関東支部

発行責任者：古川征弘（関東支部会長）

編集担当者：高橋圭介（昭和 55 年化学）

E-mail：keichan.imsut@gmail.com